

2016年7月創刊、新横浜・篠原・大豆戸・菊名などの「地域インターネット新聞」ダイジェスト版です

ネットで注目の話題

2023年春までに相鉄・東急直通線、新横浜周辺で人口増



当初は再来年(2019年)4月の開業を予定していた「相鉄・東急直通線」は、地盤の悪さや土地取得の遅れなどから工期が延び、2023年3月末までの開業を目指して工事が進められています。開業時期は遅れるものの、環状2号線の地下深くに設けられる新たな「新横浜駅」から東京都心へ直結できる“新地下鉄”への期待は高まっています。

相鉄・東急直通線は、相鉄線の西谷駅(保土ヶ谷区)から羽沢へ至り、ここに新駅を設け、JR線と東急線の2方面へ分

岐。東急直通線は、環状2号線沿いを経て新横浜駅に至ります。その先、港北区内では、新しく設けられる新綱島駅を経由し、日吉駅で東急線へ合流する約10キロの新たな鉄道計画です。

新横浜と新綱島、日吉の区内3主要駅が結ばれるだけでなく、東急東横線や目黒線へ直結。現時点では新横浜から都心方面は東急電鉄が運営を担当するとみられ、結節点となる新横浜駅には、始発着が可能なホームも設けられる予定です。

都心直結をにらみ、新横浜駅に比較的近い環状2号線沿いの大豆戸町を中心にマンションなどの住宅建設が相次いでおり、篠原町でも一戸建ての分譲が目立ちます。5月末現在、過去1年で大豆戸町では293世帯・人口571人増となり、篠原町も136世帯・222人増となっていました。

開通は5年半ほど先ですが、これから新横浜周辺がどのように変わっていくのかに注目です。

(※新横浜などの駅名は現時点でいずれも仮称)

地域のニュース

● 篠原口側の再開発前進へ横浜市が意欲

横浜市は今年度、新横浜駅・篠原口側の再開発計画「新横浜駅南部地区」で、前年より50万円多い918万円の予算を計上。駅前エリアの地権者と意見交換会などを通じて合意形成を図り、再開発の前段階となる「準備組合」の設立を目指したい考えです。

● 新横浜1丁目公園に市内初の災害用「井戸」

このほど新横浜1丁目公園に市内で初となる災害用の「井戸」が新設されました。災害時に使う仮設トイレに水を供給するためのもので、日本中央競馬会の環境整備事業交付金を活用して地下40メートルまで掘削。避難者が集まる可能性の高い主要公園だけに貴重な設備となりそうです。



井戸の水を流す横山日出夫港北区長(左)と金子清隆・新横浜町内会長

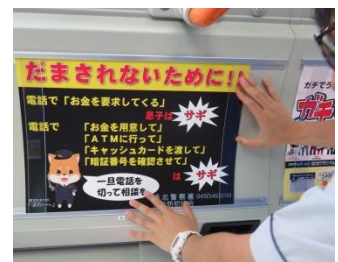
● 港北署近くの大豆戸町で赤十字が大型施設

港北警察署に近い大豆戸町で大型建物が相次いで完成しています。同署隣の「神奈川県赤十字血液センター」は日本赤十字社の職員約100人が勤務し、輸血用血液を集約する大型施設。一方、太尾新道入口交差点近くの環状2号線沿いでは独の高圧洗浄機メーカー「ケルヒヤー・ジャパン」が本社ビルを新設しました。

防犯 街の安全

区内の振り込め被害が危機的

港北区内で「オレオレ詐欺」と「還付金詐欺」の被害が止まりません。6月末までに43件が発生し被害額は1億1700万円と危機的状況。「いずれは自分の所にもかかってくる」という意識で警戒が必要です。



市営バス車内にも啓発ポスターを掲出中

SY 発行者からお知らせ

「新横浜新聞～しんよこ新聞」は昨年(2016年)7月からインターネットで発信している地域メディアです。この度、掲載記事をまとめたダイジェスト版を紙で初めて発行しました。インターネット上では、新横浜を中心とした周辺情報を毎日発信していますので、スマートフォンやパソコン、タブレットなどでもぜひ日々ご覧ください。

【発行元】一般社団法人 地域インターネット新聞社
横浜市西区北幸1-11-1 水信ビル7階

【裏面もご覧ください】

“夢の超特急”から半世紀で形作られた街の変化を伝えます

昨年(2016年)7月8日に始めた地域インターネット新聞「新横浜新聞～しんよこ新聞」は1周年を迎えました。2015年から日吉や綱島周辺の地域情報を伝える「横浜日吉新聞」を運営するなかで、同じ港北区内にあり、「相鉄・東急直通線」の開通後は身近な沿線となるにもかかわらず、区民として新横浜エリアのことをあまりに知らなかったことが創刊のきっかけでした。

● 750本超の記事、読者数は約4万に

それから、新横浜駅の開業にまつわる土地売買の裏側を描いた小説『夢の超特急』(梶山季之、1963年)を読んで驚いたり、新幹線開業後も長い間発展しなかった新横浜の古い写真や記録に接したりしているうちに、この半世紀ほどで形作られた街に強い関心を抱くようになりました。

篠原口へ初めて降り立ち、周辺を歩いた時の衝撃や、横浜線が走る新横浜1丁目付近の雑然とした雰囲気に接した時の驚きなど、同じ区内でありながら身近な場所に「今まで知らなかった世界」が広がっていることに興奮し、「これは何かを伝え続ける価値のある地域だ」と確信しました。

この1年間で新横浜を中心とした周辺エリアを歩き続け、750本超の記事を公開した結果、読者数は約4万人に達し、最近では、読者の方から情報提供をいただくことが増え、報じる内容に広がりができました。



篠原側から見た新横浜駅とビル群

● 住み、通う人が地域と接点を持てる情報を

本インターネット新聞は、新横浜や篠原・大豆戸をはじめ、新横浜に近接する菊名や小机、岸根、新羽、大倉山といった港北区の南部エリアをカバーするのが目標です。現時点では、まだそこまでいたってはいませんが、これらのエリアに住み、通う方々が地域との接点を持つきっかけとなるような情報発信を続けていきたいと考えております。

そして、新しい鉄道が新横浜と綱島や日吉を結ぶまでに、港北区という街で何が起き、どのように変わっていくのかも記録してまいります。

2年目も「新横浜新聞～しんよこ新聞」へのご愛読のほど、どうか宜しくお願い申し上げます。



一般社団法人 地域インターネット新聞社
新横浜新聞～しんよこ新聞編集部

SY 創刊から1年間で読まれた主要記事 ベスト10

- 1.<2017年3月開通>地下30mの高速道路「横浜北線」は港北区内のどこを通っているのか (2016年9月11日、11,075PV)
- 2.環状2号沿いの「大豆戸町」は要注目、新横浜～菊名～大倉山間に10以上の開発計画 (2016年10月10日、6,596PV)
- 3.北新横浜駅近くの「新羽車両基地」内にスポーツ施設やレストラン、2018年4月オープン (2016年12月25日、6,082PV)
- 4.<JR横浜線は不便>桜木町への乗り入れ増と新横浜駅に改札新設を求める声 (2016年10月13日、5,297PV)
- 5.これだけの企業が本社を置く新横浜、覚えておきたい港北区内の主要50社 (2016年11月20日、3,523PV)
- 6.<きたせん>2020年五輪時に「東名高速」と直結した時が「真の開通」 (2017年3月20日、3,034PV)
- 7.日産スタジアム周辺、覚えておいて損はない5つの意外な食事スポット (2017年2月27日、2,760PV)
- 8.横浜市、菊名駅東口の綱島街道をまたぐ「菊名歩道橋」を撤去する方針 (2017年2月11日、2,731PV)
- 9.きたせん開通で整備進む、新羽の鶴見川沿い通る「長島大竹線」で風景が変わる (2016年10月15日、2,680PV)
- 10.日産スタジアムの照明改修で明るさUPヘラグビーW杯を見据え横浜市が発注 (2017年2月5日、2,488PV)

■ 媒体概要 ■

創刊日: 2016年7月8日

- 更新頻度: 毎日(1日あたり記事1~3本)
- 読者対象: 横浜市港北区の新横浜・篠原・大豆戸・菊名・岸根・小机・新羽・大倉山など区内南部エリア
- 読者数: 月間49,130人(2017年5月時点)※過去最高
- 閲覧数: 月間163,777ページ(2017年5月時点)※過去最高
- 媒体の特徴: 地域におけるイベントや祭りなどの「告知」をはじめ、防犯、再開発、行政関連などニュース性の高い内容を積極的に報じています。特に公共施設と重要鉄道駅、企業の本社が集中する地域のため、行政と交通機関、ビジネスの話題が比較的多い傾向があります。



しんよこ新聞では「ツイッター」(@shinyoko_net)や「フェイスブック」(@shinyokonews)でも毎日情報を発信中です

